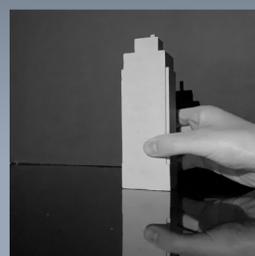
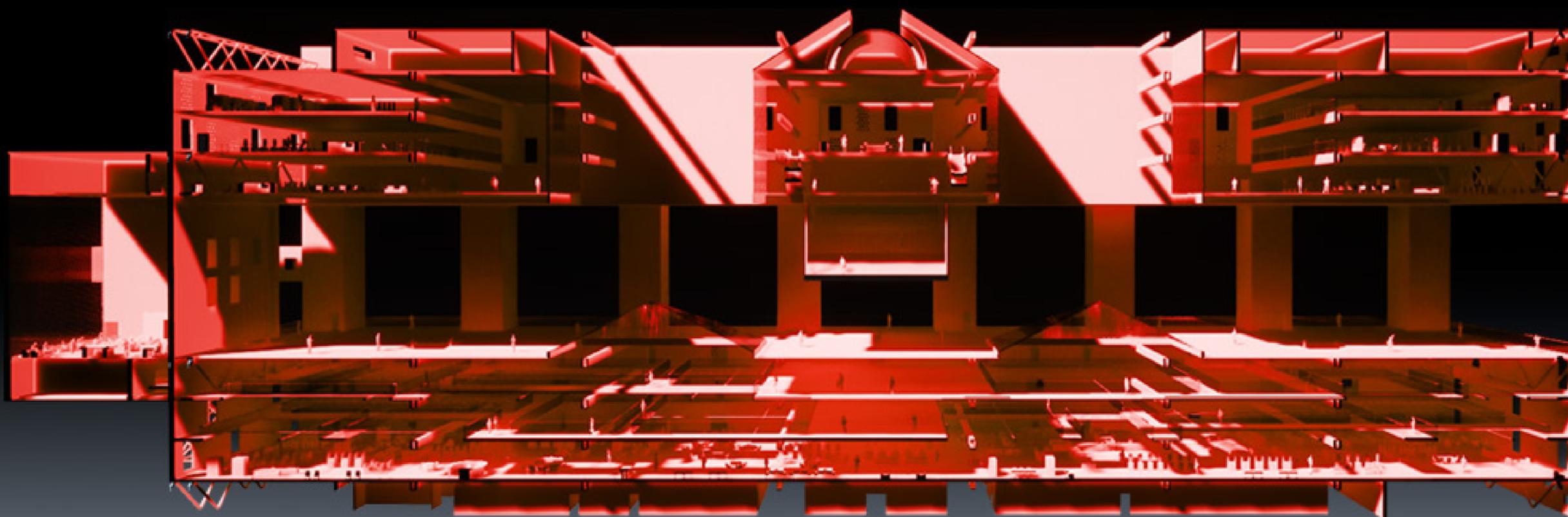


作品名	政治的涅槃像	作品番号	1/5
校名	前橋工科大学		
氏名	笠原 竣介		

# 政治的涅槃像

近年、市民に対して開かれているべき庁舎建築は、巨大なオフィスビルとなりつつあり、高さを競い、そこに派手な衣裳をまとうことで象徴性の獲得を試みている傾向にある。しかし、その操作が市民に壁をつくり、行政との関係を希薄化させているのではないか。また、超高層ビルは機能主義の権化のようにみなされ、利便性と効率性を最大限に価値化してきたが、本来超高層ビルとは土地が足りない空間を積層化して、都市を拡張させるものであった。ル・コルビュジェの「輝く都市」で提唱した理想都市は高層化と引き換えに地上のオープンスペースを増やすものであったが、いつの間にかオフィスが入る空間としてどんどん効率化され、そのために多様な機能がひたすら詰め込まれている。コロナによって「密」な空間は望ましくないとされている今、超高層建築について見直す必要があり、市民と行政の境界をなくすためには、象徴性は必要ないと考える。



## 象徴性の消失 - 高さ -

高さは必ず追い越されてきた超高層建築の歴史を振り返ると、東京都庁舎の高さに次ぐ154mの群馬県庁舎なども、たちまち乗り越えられるのは確実であり、将来いかに超高層が乱立してもユニークな存在であり続けることができるかは疑問である。市庁舎建築も同様に、市民のための建築というよりも知事や市長など一部の人の力を示す道具にされているのではないかと。高さを競うことに躍起になることで市民を取り残した独りよがりな建築となってしまう。そこで高さを競うことから離脱し、象徴性を表現するような企画は捨てるべきだと考えた。よって、群馬県庁舎を横倒しするという超高層建築に対するアンチテーゼであると同時に低層案の可能性を示す。

## 象徴性の消失 - 古典主義建築 -

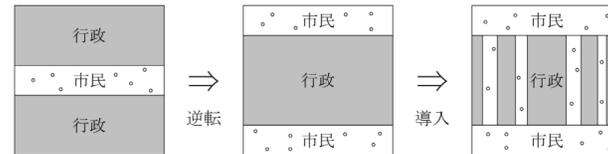
象徴性には高さ以外にも、古典主義建築のような強さがあると考える。そこであえて、神殿のような建築とし、それを抜き取るなどの操作により、象徴性の不必要を強調する。横倒しした群馬県庁舎は16mの層が3層連なり、その間の2層目を抜き、公共テラスへと変換する。その挟まれた空間は周辺エリアのリビングルームとして機能し、周辺の景色を望むことができる。そこに16mの大階段を架け、上るにつれて都市に対する視野が開けていき、2層目の大階段も上りきると、利根川方面の景色を見晴らせる。エントランスには大階段を上ってわざわざ下る。これは市民が行政という壁を乗り越えるというメタファーである。古典主義建築否定の要素として、議場の機能がいったキャンチレバーによる左右非対称、不規則な開口部の配列、ブロークンペディメント、裏動線の機能がいった組石の抜き取り、スカイ・プラザの柱が引っこ抜かれたような穴といったものがある。

## 「縦割り」体質からの脱却

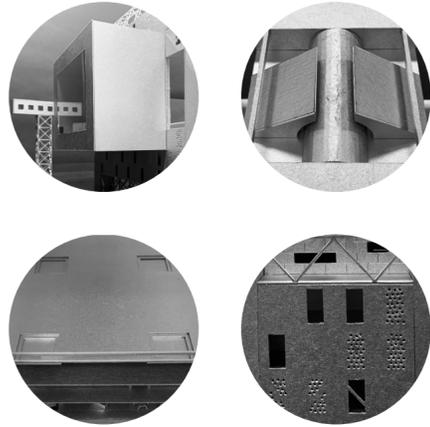
グローバル化によって人やモノや情報の重要性が加速度的に横に流れている中、日本社会は縦割りを一生懸命守ることで全く適合できていない。そんな日本の組織を変えていくためには横軸をつくり、つないでいくという横断性が必要であると考えた。そこで低層に抑え、大空間に部署をまとめて入れ込むことで、縦割り行政から横へのネットワークを促す。また、壁や柱のない執務フロアを部署単位でフリーアドレス化して横の繋がりを柔軟にする。

## 市民と行政の異種混浴

現前橋市役所は横に伸びる長いカウンターが市民と行政を二分化し、一線を引いている。また、市民の場に空間のゆとりが無く、場所の選択性が皆無であったため、市民が立ち寄りにくい開かれていない印象を与えていた。そこで市民と行政を逆転させ、執務空間に市民の場となる空間を導入し、庁舎内の移動はもちろん、休憩や読書、勉強など、自由な用途に利用でき、ある時には市民と職員が雑談をするといった交流が生まれる。そんな市民と行政が混ざり合った空間を提案する。業者の打ち合わせや機密情報など、例外的に見られるとまずいものについては、会議室や作業室で行うこととする。細分化された縦割りの組織は、グラデーションの部分の色を言い当てるようなものであり、それが市民にとっての分かりづらさ、行政業務の複雑化を表している。そこで部署ごとに色で分け、床と壁の色から市民が一目で分かるようにする。



作品名	政治的涅槃像	作品番号	2/5
校名氏名	前橋工科大学		笠原 竣介



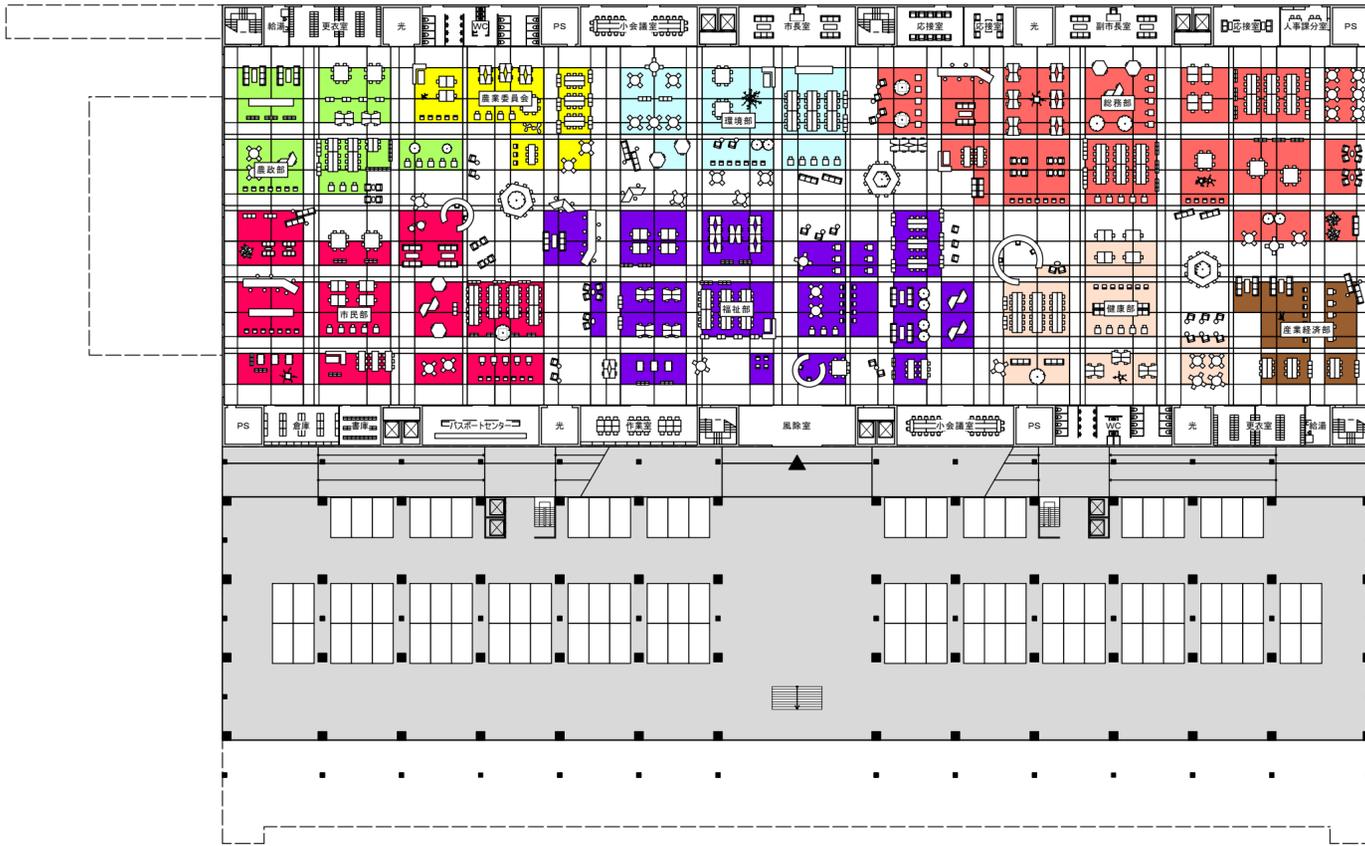
組織構成	
社会福祉課 長寿包括ケア課 介護保険課 秘書広報課 職員課 行政管理課 防災危機管理課 契約管理課 生活課 市民課 文化国際課 スポーツ課 観光政策課 総務課 教育施設課 学校教育課 青少年課 国民健康保険課 都市計画課 建築指導課 建築住宅課 市街地整備課 区画整理課 財政課 資産管理課 収納課 市民税課 資産税課 環境森林課 ごみ減量課 廃棄物対策課 道路建設課 道路管理課 公園緑地課 農政課 農村整備課 専務局 政策推進課 未来政策課 交通政策課 情報政策課 産業政策課	福祉部 総務部 市民部 文化スポーツ観光部 教育委員会 健康部 都市計画部 財務部 環境部 建設部 農政部 農業委員会 未来創造部 産業経済部

現前橋市役所

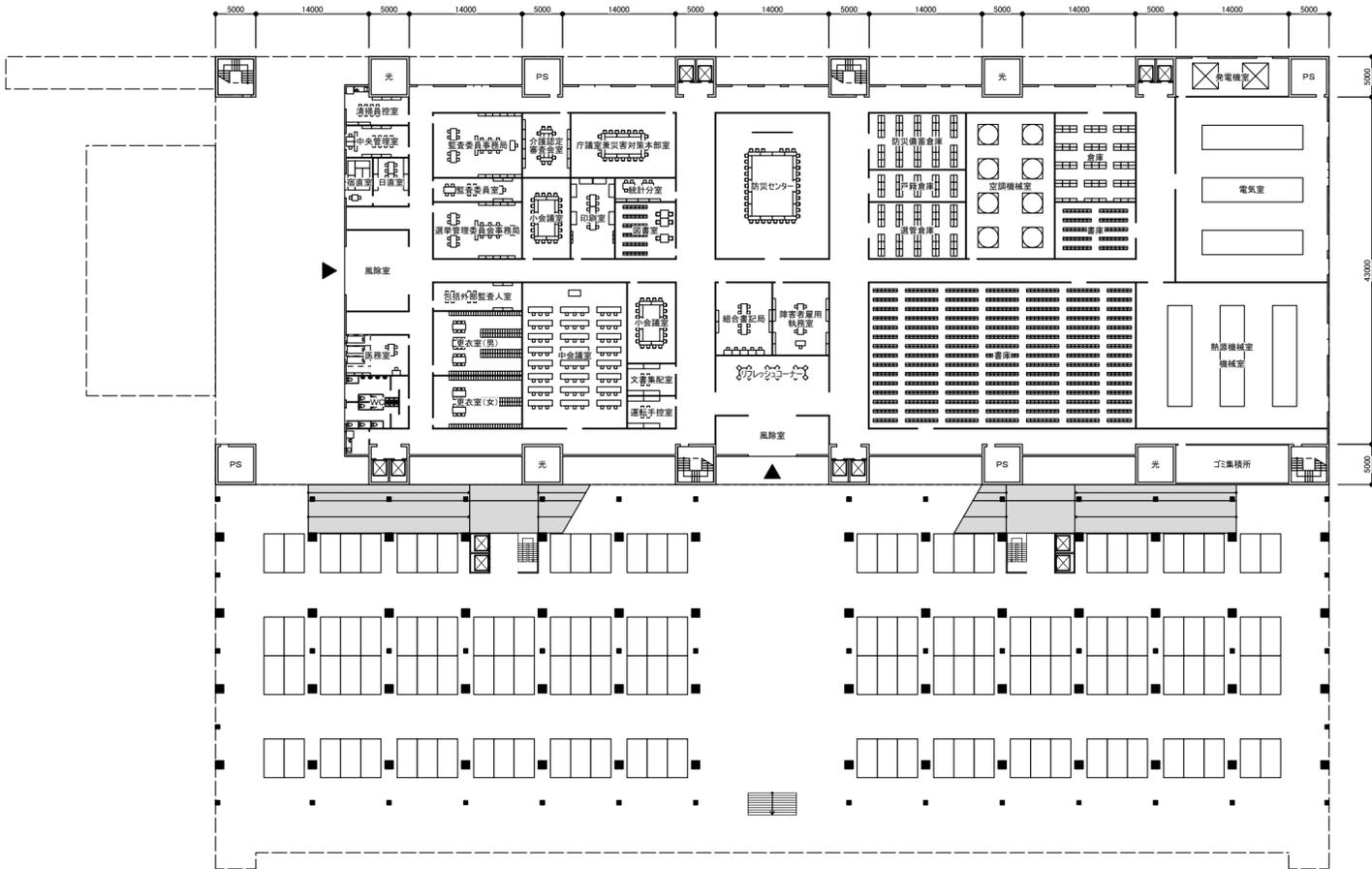
本計画

## 未来型オフィス

IT先進国であるエストニアでは結婚、離婚、土地売買の手続き以外すべてが電子申請であるため、窓口にはほとんど人がいないという状況である。数年後、日本でも電子申請が一般的になれば、窓口業務は大幅に減り、手が空く職員も生まれることだろう。そこで人員を削減するのではなく、地域コミュニティの現場のサポートやデジタル機器を扱うことが苦手な高齢者に支援サービスを提供する方向にシフトする未来型オフィスを提案する。その例の1つとして、AI窓口を設えることで外国人の対応を円滑にし、3密回避やソーシャルディスタンスを支援する。



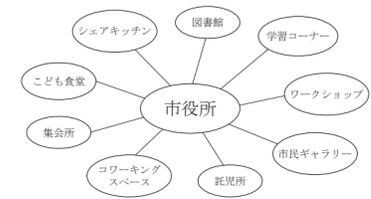
2階平面図 S=1/600



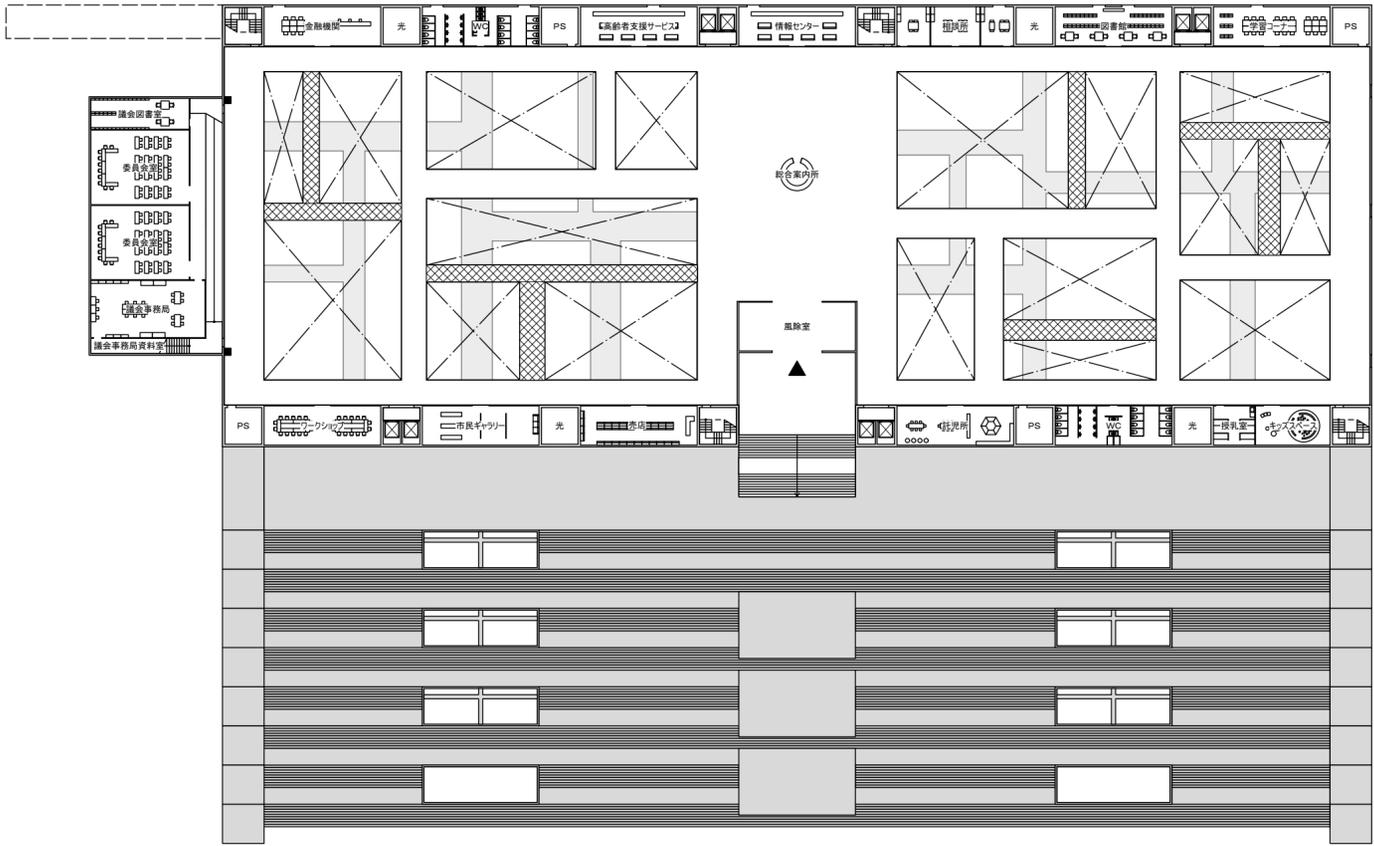
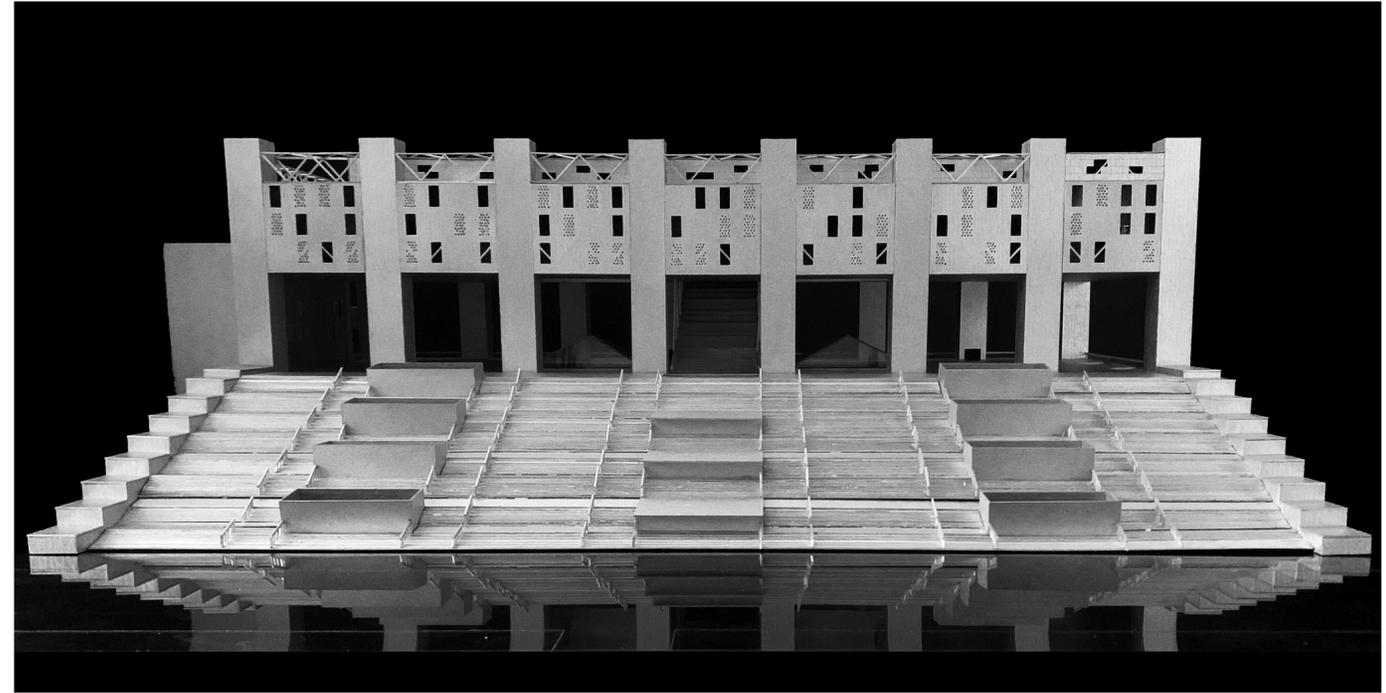
1階平面図 S=1/600

# 多世代交流の拠点

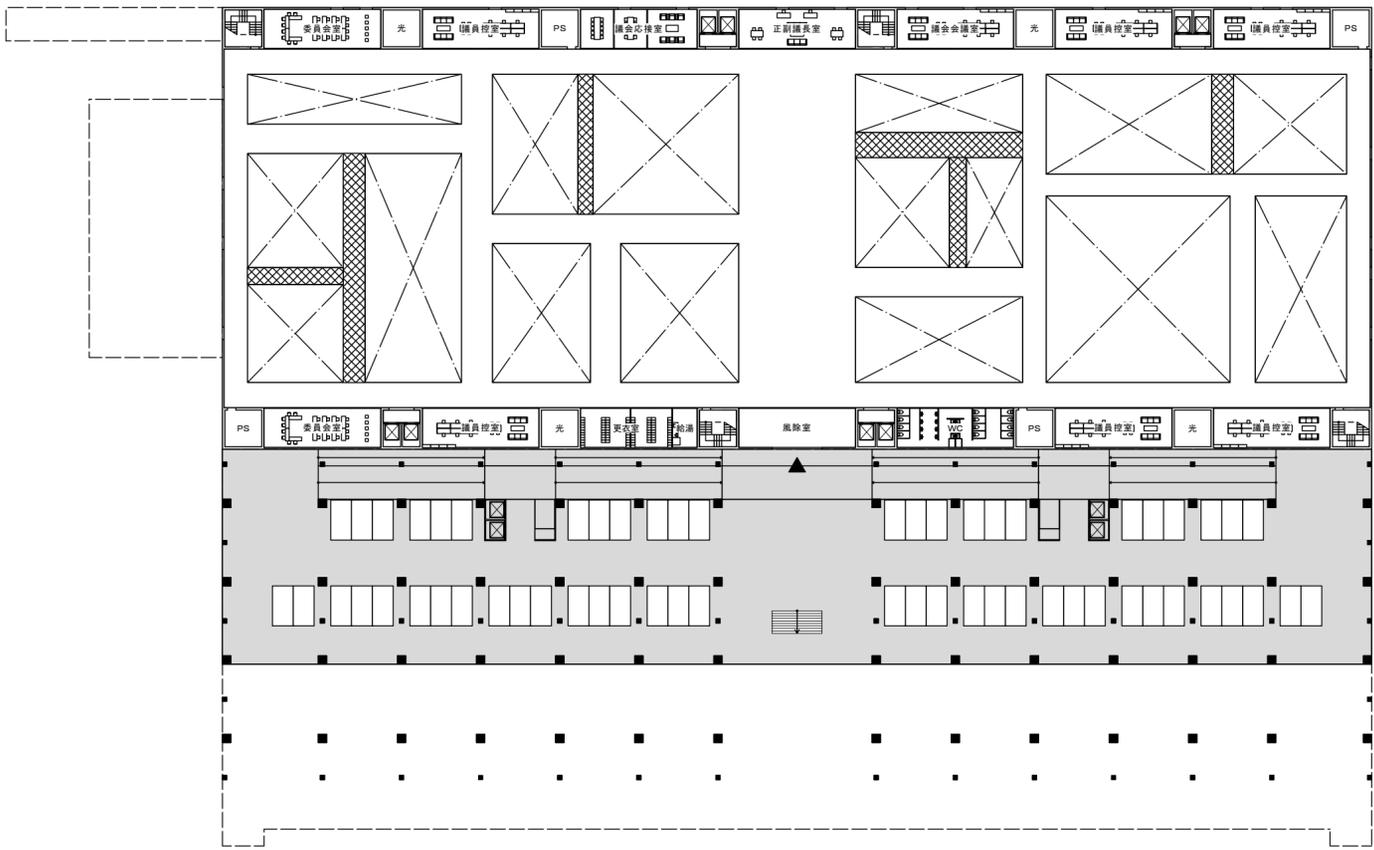
硬いイメージのある行政機関に、多種多様な機能を取り込むことで日常の延長線として市民に開かれた庁舎を目指す。



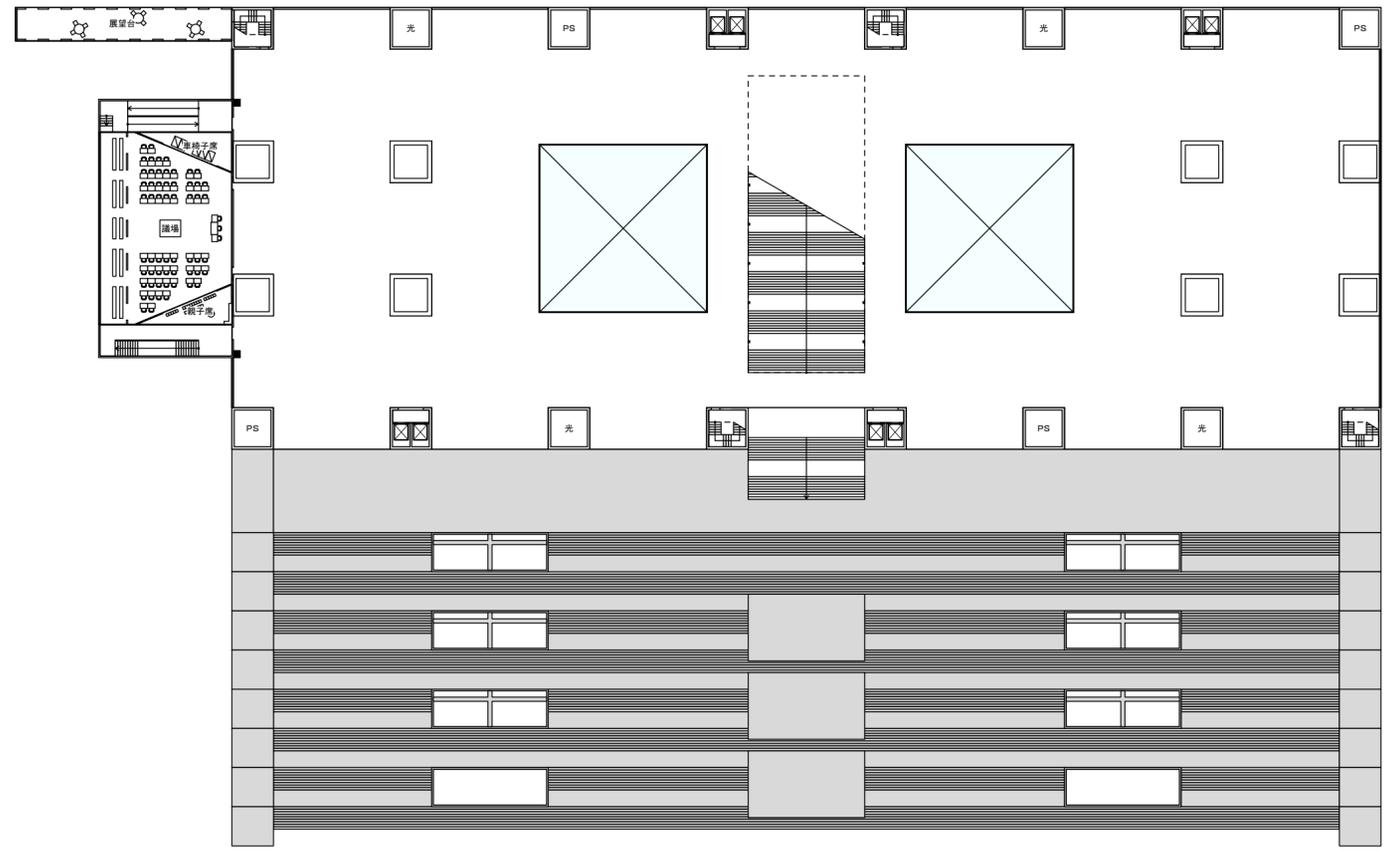
作品名	政治的涅槃像	作品番号	3/5
校名	前橋工科大学		
氏名	笠原 竣介		



4階平面図 S=1/600



3階平面図 S=1/600



スカイ・プラザ平面図 S=1/600

作品名	政治的涅槃像	作品番号	4/5
校名	前橋工科大学		
氏名	笠原 竣介		

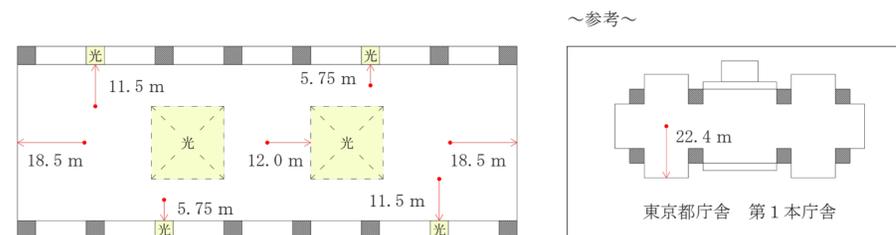
## 計画敷地

対象敷地は群馬県前橋市にある群馬県庁舎と隣接した敷地である。前橋駅からまっすぐ伸びてくるけやき並木の終点に位置しており、東西両面から眺めた際の都市景観が重要な課題となる。現前橋市役所は1981年に竣工されたが、群馬県庁舎の登場により二番手が否めなくなっており、資本主義社会でよく見る箱のような建築で、市民に開いた印象は受けない。そんな経済の原理の中に埋もれ委縮した市役所を群馬県庁舎と対峙した関係をつくり、市民、都市との関わりの中で再構築する試みである。



## 規模計画

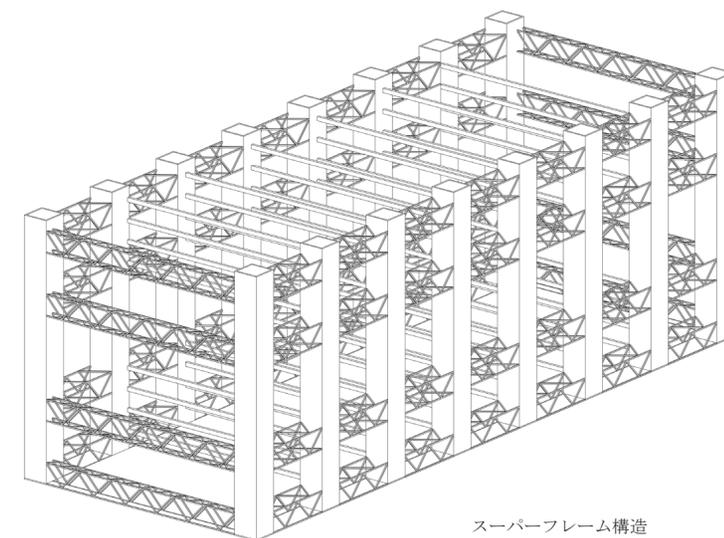
執務空間の快適性を図るために、最大奥行（外部への開口部までの距離が一番遠い席における開口部までの距離）を計測する。ただし、アトリウムは自然光を取り込んだものとして外部と同じ扱いをする。



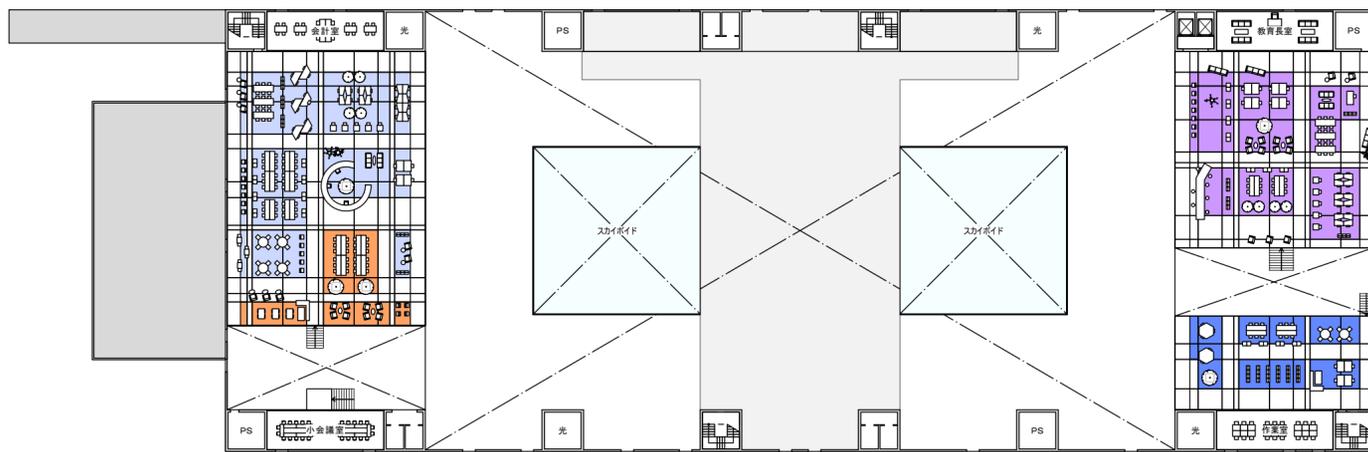
2F執務空間の最大奥行において、最も長いものが18.5mであった。参考として、丹下健三が設計した東京都庁舎は22.4mであった。20mを下回る結果となり、大規模な吹き抜けやアトリウムを巧みに利用したことで、明るさを得ている。

## 構造計画

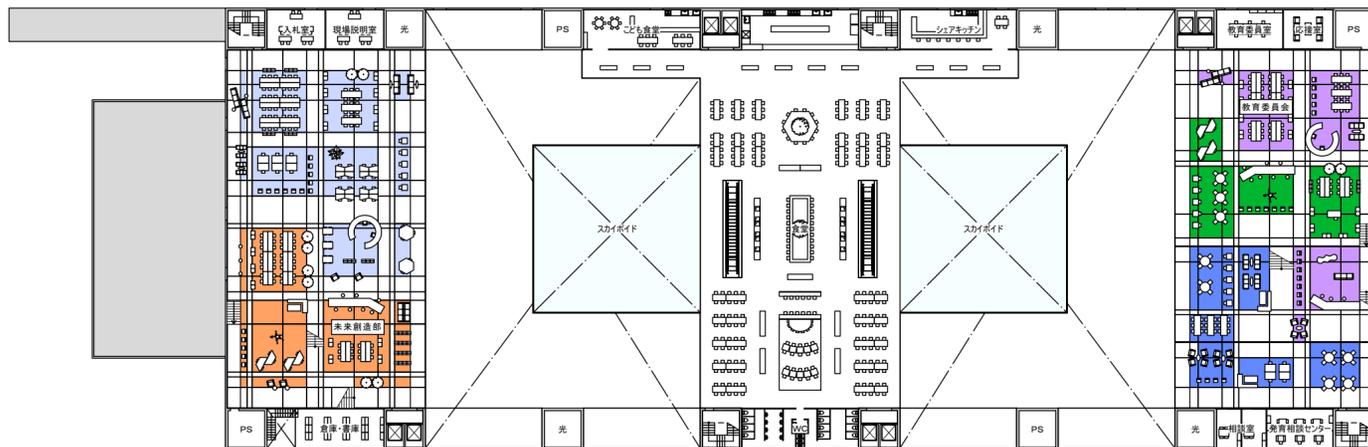
建物は5m角の16本のコアを最上階から最下階まで通し、これらのコアを巨大な柱とみなしたスーパーフレーム構造を採用することで、鉛直荷重および水平荷重を支える。コアは階段やエレベーターホールといった人の縦動線以外にPSやトップライトから自然光を執務空間まで届け、室内環境を整える設備コアでもある。1・4階と5・8階の外周部をトラスで組み、スーパーストラクチャーを構成することで、耐震、耐風安全性の向上に寄与し、地震時、強風時の揺れを抑え、居住性を高める。



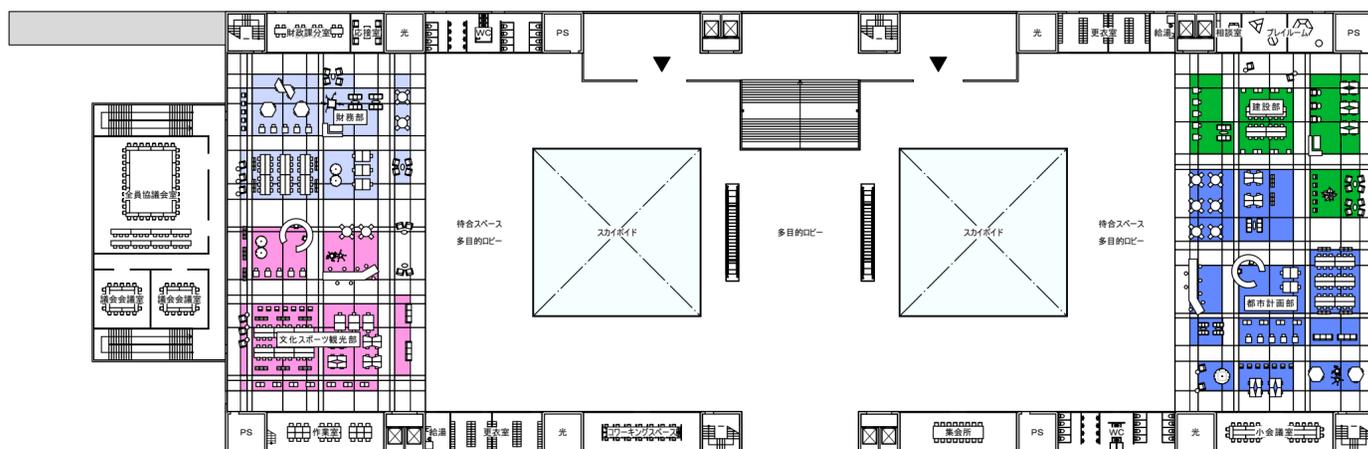
スーパーフレーム構造



7階平面図 S=1/600



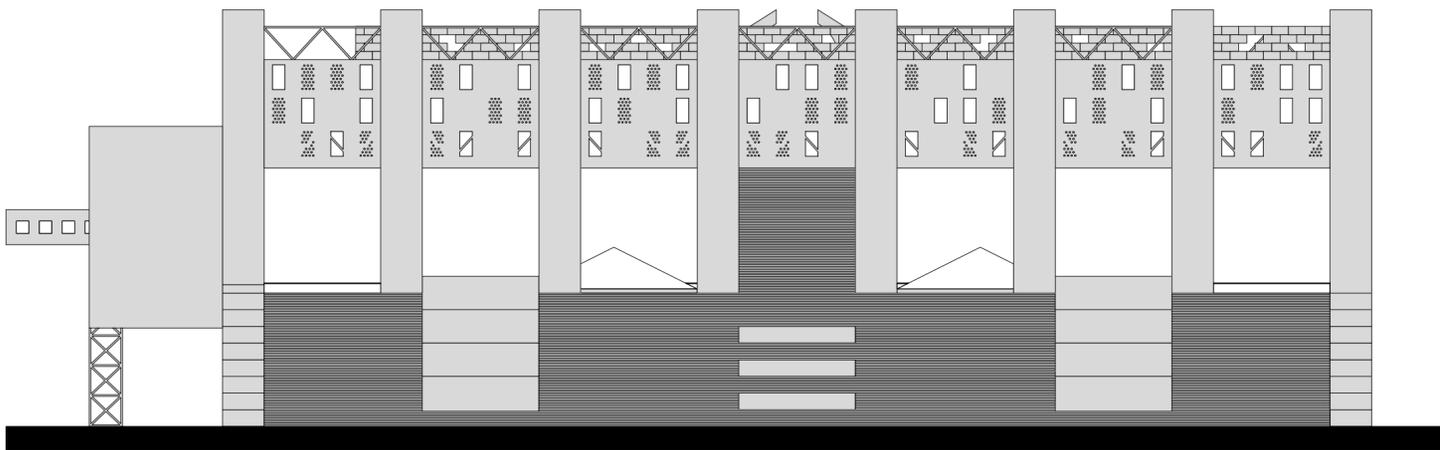
6階平面図 S=1/600



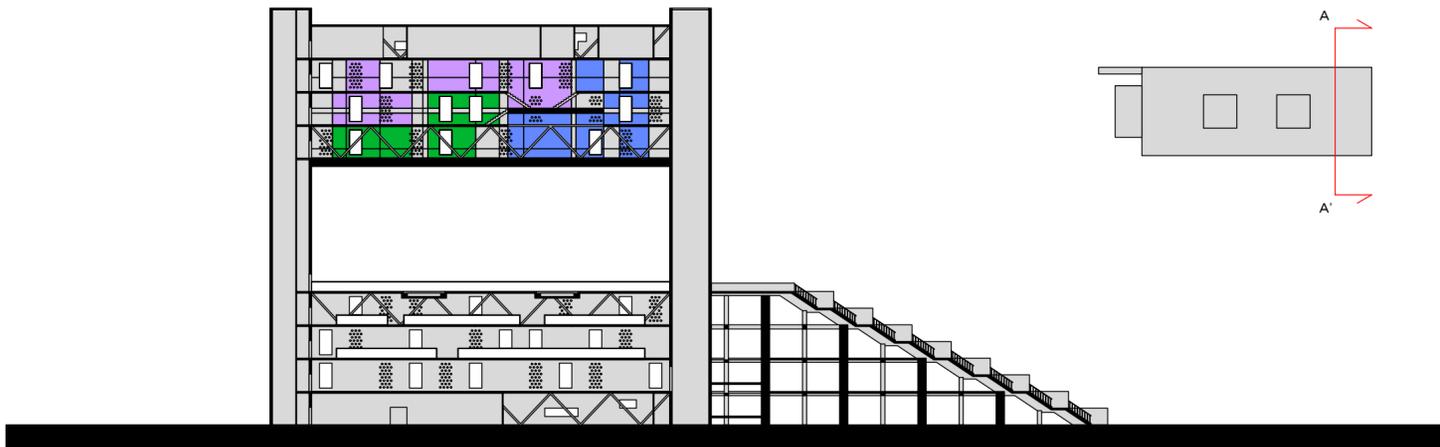
5階平面図 S=1/600



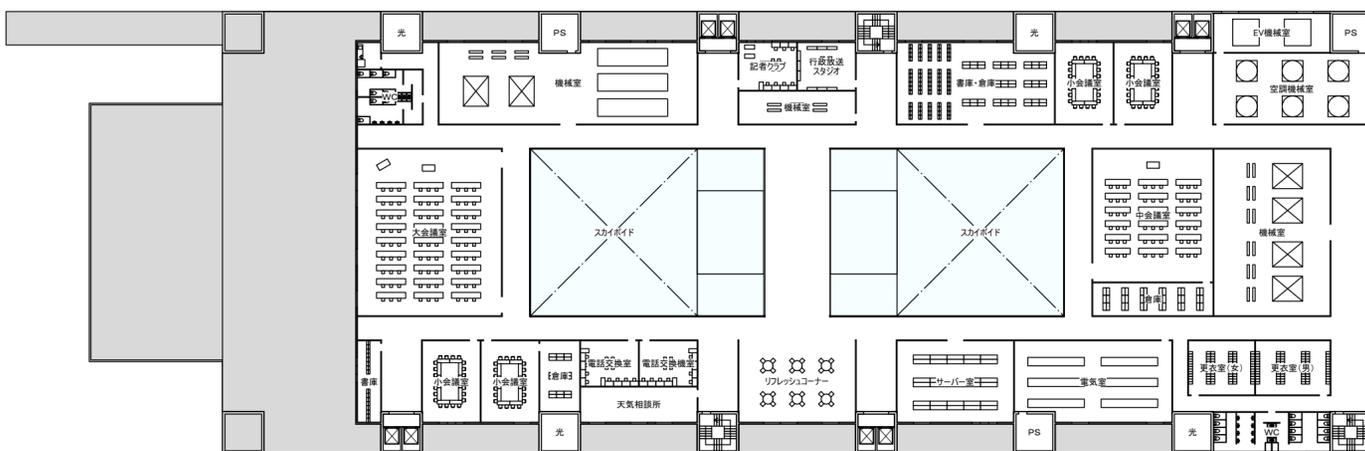
作品名	政治的涅槃像	作品番号	5/5
校名	前橋工科大学		
氏名	笠原 竣介		



長手立面図 S=1/600

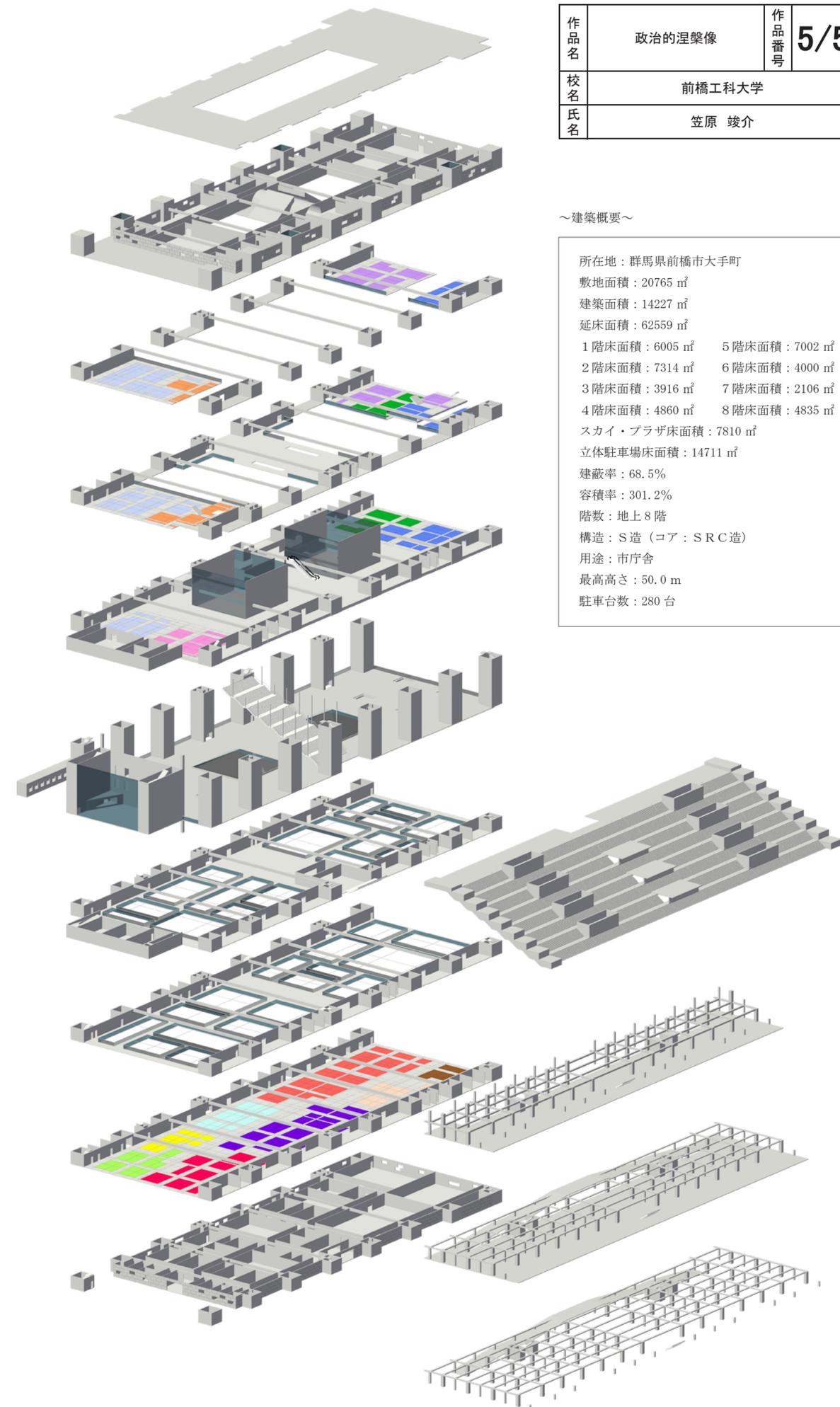


A-A' 断面図 S=1/600



8階平面図 S=1/600

- 屋根
- 8階
- 7階
- 6階
- 5階
- スカイ・プラザ
- 4階
- 3階
- 2階
- 1階



～建築概要～

所在地：群馬県前橋市大手町  
敷地面積：20765 m<sup>2</sup>  
建築面積：14227 m<sup>2</sup>  
延床面積：62559 m<sup>2</sup>  
1階床面積：6005 m<sup>2</sup>    5階床面積：7002 m<sup>2</sup>  
2階床面積：7314 m<sup>2</sup>    6階床面積：4000 m<sup>2</sup>  
3階床面積：3916 m<sup>2</sup>    7階床面積：2106 m<sup>2</sup>  
4階床面積：4860 m<sup>2</sup>    8階床面積：4835 m<sup>2</sup>  
スカイ・プラザ床面積：7810 m<sup>2</sup>  
立体駐車場床面積：14711 m<sup>2</sup>  
建蔽率：68.5%  
容積率：301.2%  
階数：地上8階  
構造：S造（コア：SRC造）  
用途：市庁舎  
最高高さ：50.0 m  
駐車台数：280台